

医師会だより



新型コロナウイルスの現在と未来

新型コロナウイルスが激減したのはなぜ？

① 新型コロナウイルスの効果が、ワクチンの効果は誰もが認めるところだが、ドイツ、英国などワクチン接種率は高いのに感染者が増えている国が多く、ワクチン接種率のみで日本の感染者が急減を説明するには無理がある。また、英国やイスラエルなどワクチン接種が先行した国では、ワクチン効果による免疫力が弱まって、いた時期にデルタ型が流行し、接種した人も感染する「ブレックスルー感染」が増えたとする意見もある。

② マスク 感染が再拡大した国と日本との大きな違いはマスクの着用率である。日本では感染者数が減った今でもほとんどの人がマスクを付けているのに対し、再拡大している国ではマスクをしていない

現在と未来

③ 換気と行動自粛
④ コロナウイルスの 4 か月周期説
⑤ デルタ型の自滅説

人の方が非常に少ない。コロナウイルスの 4 か月周期で訪れていて、新型コロナウイルスが持つ一定の法則と「説」もあり、この「4 か月周期」は AI も予測している。たと言ふ専門家もいる。この予測からすると次のピークは来年の 1 月 14 日頃である。これから注意が必要である。

⑤ デルタ型の自滅説
国立遺伝学研究所と新潟大学の合同研究チームが 10 月末に発表したのがウイルスは転写エラーを修復する酵素を持っていて、人間の持つAPOBECという酵素がこれを変化させ、ウイルスは転写ミスの修復が出来ず死滅するとの説。東アジアやオセアニアではそのAPOBECという酵素の働きが特に活発な人が多いそうである。

新型コロナウイルスに対する新しい経口薬の実用化が見えてきている

英国で 11 月に米メルク社のモノルピラビル、米ファイザー社のパクスロビドの 2 剤が承認された。重症化リスクを有する軽症から中等症の患者を対象に実施された臨床試験で一定の有効性と安全性が示された。この 2 剤に加え国内の塩野義製薬が年度内に経口薬の実用化を目指している。3Cプロテアーゼ阻害剤と言われ世界中の研究所が目指している薬剤である。ワクチンと共にコロナの矛と盾になることを期待したい。

今後のコロナ対策？

新変異株「オミクロン株」が世界中で流行の兆しを見せている。WHOは極めて深刻としている中で、感染力は強いが、重症化は少ないとの報告もある。医師会からも正確に必要な情報を伝えてまいります。今後情報に注意しながら感染予防に努めてください。

インフルエンザワクチン、今年は足りない？

「もう予約でいっぱいです。」電話しても断られませんでしたか？医療機関も「昨年の 6、7 割しか入らない」と薬問屋さんから言われ困っています。

厚生労働省によると今シーズン（12 月～3 月）の供給量は成人に換算して約 5636 万人分、昨シーズンに比べて 16% 程少なくなるそうです。4 種類のウイルスに対応するようにした H27 年以降の使用量は H28 年 5130 万人、H29 年 5284 万人、H30 年 5268 万人、令和元年 5650 万人、令和 2 年 6548 万人分です。昨シーズンはコロナの影響もあり特別に多かったのですが、今年の供給量は平年並みで、例年の使用量から見ると、例年にか足ることが出来るかの判断です。

現在不足している理由はインフルエンザワクチンの製造に使う細菌などを除去するフィルターを新型コロナウイルスワクチン製造に大量に使用し確保が遅れたためです。

「12 月中旬にかけて製造企業から順次出荷される見込みであり、医療機関等へのワクチンの供給は令和 4 年 1 月以降も継続する可能性があります。ワクチン接種を希望する方が令和 4 年 1 月以降も適切に接種出来るよう配慮するように」と厚生労働省から通達も出ています。高齢者、基礎疾患を持つ方の接種を優先する中で、健康な成人の方は接種を少し待ってください。

昨シーズンのインフルエンザ感染者は非常に少なく、平成 11 年以来初めて「流行なし」です。新型コロナウイルス感染対策のマスクや手指衛生が効果を発揮したのです。今年の流行も私たちが感染対策を守るかどうかにかかっています。

朝長 昭光

【医心伝心】
こんどの年末年始は家族や友人との久々の再会を楽しみにしておられることでしょうか。感染対策を十分に行った上で、二分の笑顔で「会えたかった」を伝えてください。

「あなたの笑顔が必要です！」大村市医師会潜在看護師研修事業

看護師への復職を考えている方、復職のための研修を受けてみませんか。詳しくは大村市医師会まで。